

令和2年度 北海道小学校長会 地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区 : 日高地区
 - 2 事例報告学校名 : 新ひだか町立桜丘小学校
 - 3 報告者 : 校長 宮嶋 隆行
 - 4 キーワード : 地域の中で生きる子どもの育成
-

1 はじめに

本校は昭和61年に御園小学校、豊畑小学校、田原小学校が統合して誕生した。大きく3つの地区に分かれており、校区が広いため、ほとんどの児童はスクールバスを利用して登校している。今年度の在籍は児童43名であり、一部複式となっている。牧場経営または勤務している家庭が多く、PTA活動や学校行事への参加に積極的な地域である。

2 地域の資源を生かした学習「桜っ子タイム」

子どもたちが静内のことを知り、静内に誇りを持つことで、次代の地域創生につなげられるよう、次の目標により、本校の総合的な学習の時間を実施している。

【目標】

- ・身近な生活の中で、人や物との関わりを自分の課題としてとらえ、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、課題を解決する力を育てる。
- ・さまざまな社会的事象や地域、身近な動植物などに関心をもち、問題解決に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、さらには地域との関わりを深めるとともに、地域に発信・貢献しようとする桜っ子を育てる。
- ・桜っ子タイムにおいては、横断的・総合的な学習や、探究的な学習を通して、児童が自己の学習や生活を見つめ直し、考えることができるようにする。

具体的な学習内容については、地域の学習（桜、特産物、基幹産業、文化など）と情報教育（主にパソコンを用いて、情報の収集や発信、モラルについて学ぶ）の2本柱で行っている。また、学習においては、地域や関係機関、近隣の学校との連携を進め、効果的な学びとなるよう各学習を計画する。

3 具体的な学習

(1) 桜の学習（5、6年生）

本校は静内地区の二十間道路桜並木のすぐそばにあり、この桜は町民の誇りでもある。子どもたちは町内の名所の歴史や桜の特徴などについて学び、保存会の方の指導のもと、植樹を行った。この学習を通して、子どもたちは身近にある名所について知るとともに、地域の一員として地域を大切に思う心を養うことができた。



(2) ミニトマト栽培体験（生活科～2年生）

地域の特産品であるミニトマトについて知るために、地元 JA の方にご協力いただき、毎年行っている。普段何気なく食べている物が実はふるさとの特産であることを知り、ふるさとの産業に興味を持つきっかけとするために低学年生活科の学習として行っている。



(3) 静内農業高校との連携

①学校花壇の整備（3、4年生）

毎年静内農業高校生産学科演芸部門の1年生が来校し、本校の花壇を児童とともに整備する活動を行っている。異校種の交流活動を子どもは楽しみにしており、お兄さんお姉さんに色々と教えてもらいながら、環境整備の大切さや愛校心を養う。また、優しく教えてくれる高校生への憧れ等の感情から、「自分もいつかそうになりたい」という思いを持つ児童が多い。



②馬のお世話と乗馬体験（3、4年生）

静内高校生産学科馬部門の皆さんのご協力のもと、静内地区の基幹産業である競走馬生産について学び、実際にお世話をしたり、乗馬体験したりする学習である。牧場関係の家庭が多い本校であるが、児童が馬とふれあう機会はありませんが現状である。この体験を通して、地域の産業に興味を持つとともに、命の尊さについても学べる大切な機会となっている。



4 おわりに

人口過疎地域にある本校に寄せる地域の方々の願いは、子どもたちが将来の地域の担い手として立派に成長し、いつかここ静内に戻ってきて欲しいというものである。その願いを実現させるためには、学校は地域と目標を共有し、ふるさとを持続可能な社会として発展させていくとともに、地域とともに子どもを育てていかなければならない。

本校は、総合的な学習の時間を中心とした学習を通して、今後も子どもたちがふるさとをよく知り、ふるさとに誇りを持った大人に成長できるよう、地域と連携した取組を推進していく。